

大安寺跡

大安寺は、初代の石見銀山奉行であった大久保長安（1545～1613）によって浄土宗の菩提寺として 1605 年に建てられたお寺です。有能な官僚であり、鉱山に関する知識に長けていた大久保は、徳川幕府を開いて日本の統治を行った将軍、徳川家康（1543～1616）が 1600 年に銀山の支配権を得るとすぐに銀山奉行に指名されました。大久保は石見銀山が全盛を迎えるための基礎を築いたと評されており、のちに貴金属が最も豊富な土地の多くで監督する立場へ当用されることになりました。

大安寺にある大久保の墓は、遺体を埋葬するものというよりも記念碑で、69 歳で亡くなるよりずっと以前に用意されたものでした。名高い銀山奉行を祀る土地に埋葬されたいと望む人々が多く、墓地はのちにその墓の周りに広げられました。お寺は 1943 年まで残っていましたが、大洪水や度重なる山崩れによって建物が破壊されてしまいました。今では大久保の墓を含む墓地の一部だけが残っており、銀山川の歩道から石段を登って訪れることができます。